公開版

地球規模保健課題解決推進のための研究事業（日米医学協力計画）
「日米医学協力計画の若手・女性育成のための日米共同研究公募」
事後評価　課題評価委員会における主な指摘事項

研究開発課題名	COVID-19 における SARS-CoV-2 特異的な気道粘膜免疫システムと重症度との関連性の解明　/　Roles of T follicular helper cells and tissue resident memory cells of mucosal immunity in COVID-19 disease severity
研究開発機関	琉球大学大学院医学研究科
研究開発代表者	山本　和子
研究期間	令和 3 年 1 月 29 日から令和 4 年 3 月 31 日

○評価委員会コメント

強み：

- 臨床検体を用いた中和抗体の解析、免疫複合体と重症化の関連性、ウイルス量と抗体価、ワクチン接種後の抗体価などの解析は臨床上重要であり、当初設定された目標以外の関連研究では一定の成果を得ている。
- 外部環境の変化に応じて代表者、分担者が各種関連研究に取り組み成果を挙げた。
- 米国側研究者が COVID-19 マウスモデルの樹立や、IL-21R 欠損マウスを樹立しており、今後の研究が期待される。

弱み：

- アルファ株からオミクロン株への置き換わりを理由に採択の根拠となった当初の計画が実施できていない。保管された検体を用いて、当初計画されていた COVID-19 における TFH、TRM の意義が明らかになることを期待する。
- 関連研究には同様の報告が多く、新規性に乏しい。
- 長崎大学を中心とした国内研究体制が整備されているが、米国研究者のマウス研究と日本での研究との関連性が報告書からは読み取れなかった。国際共同米国サブチームとして挙げられている研究成果には日本サブチームは参画していないように読み取れた。